

医療法人徳洲会 沖永良部徳洲会病院（地域医療）

へき地・離島地域医療研修プログラム

研修責任者 藤崎 秀明

研修期間 4 週

<研修目標>

一般目標

へき地や離島での医療・福祉資源に制約のある地域特性を理解し、救急医療、初期治療ができ、地域での保健活動や健康増進の行える臨床医として成長するために、日本の医療におけるへき地離島がどのようなものかを知り、単に「医学」という学問だけでなく「保健医療」という社会的側面を考慮し、特定の診療科にとらわれない総合診療を主体とした自立診療を経験する。

研修到達目標

- ① へき地や離島の中小病院およびその附属診療所や施設が健康増進、健康維持に果たす機能と役割を述べることができる。
- ② へき地や離島の地域特性（高齢化や限られた医療・福祉資源や医療体制の問題）が、患者の罹患する疾患、受療行動、診療経過などにどのように影響するかを述べることができる。
- ③ 特定の診療科にとらわれない総合診療と全人的医療を行うに当たり、チーム医療や他職種との連携の重要性を認識した診療をする。
- ④ 慢性疾患をフォローするための定期検査、健康維持に必要な患者教育（食生活、運動、喫煙防止または禁煙指導など）、スクリーニング検査、予防接種など高齢者、慢性期医療の現状を把握して診療を行うことができる。
- ⑤ へき地や離島において、患者の問題解決に必要な医療・福祉資源を挙げ、その地域または都市部の各機関との連携業務を通じて、地域包括ケアの実際について述べるができる。
- ⑥ 診療情報提供書や介護保険のための主治医意見書、入院から退院までのソーシャルワークの計画やリハビリテーションのオーダーの補助ができる。
- ⑦ 疾患のみならず、生活者である患者に目を向け、患者とその家族の要望や意向、地域の実情を十分に尊重しつつ問題解決する。
- ⑧ へき地や離島でのトランスポートの方法について判断できる。
- ⑨ 問題解決に必要な情報を、適切なリソース(教科書、二次資料、文献検索)を用いて入手、利用することができる。
- ⑩ 担癌患者や脆弱高齢者の終末期に際し、患者の自律性や選好を尊重し、その背景や家族、医療・福祉資源の状況を考慮に入れ、緩和治療、終末期ケアおよび臨終に際する。

<研修方略>

研修の方法

聖隷三方原病院の地域保健・医療分野の研修の場として、以下に指定するへき地離島の協力型病院または協力型施設である中小規模病院およびその附属の施設にて、2年次に1ヶ月間勤務し、指導医と共に外来診療、入院診療などの実務研修を行う。院内の他職種とのカンファレンスなどにも参加し、訪問診療や予防医学活動、健康教室に同行する。救急搬送も機会があれば体験する。

○ 研修開始前

- 研修目標や評価方法について、研修医の所属する研修担当責任者と事前に打ち合わせをする。

○ 研修開始時

- 研修開始時に研修医と共に研修のゴールを確認し、研修医の学びたいこと、指導医が研修医に期待することを明確にしておく。（プレ・アンケート使用）
- 研修する病院の業務および地域特性についてオリエンテーションする。

○ 研修期間中

- 特定の診療科に偏らず、一般的な疾患を有し、さまざまな背景をもつ患者を診察する機会をもつ。
- 慢性期・回復期の病棟（入院患者）も担当する。
- 新入院のカンファレンス、回診に参加する。
- 入院患者については、指導医または上級医と伴に回診する。
- 他職種との合同カンファレンスにも参加する。
- 訪問診療・については研修医だけの単独診療にならないように注意し、指導医同行のもとで行う。
- 診療情報提供書、介護保険のための主治医意見書などの書類を指導医の言う内容の口述筆記などとして作成する。
- 入院から退院までのソーシャルワークの計画やリハビリテーションのオーダーの補助なども指導医の了解のもとに行う。
- 外来診療や時間外の外来および当直業務は、指導医の監視下、もしくは、いつでも相談できる適切なオンコール体制で行う。
- 機会があれば健康教室への参加、なければ院内職員向けのレクチャーなどを行う。
- 機会があれば、予防医療活動や検診業務に指導医と伴に同行し、参加する。
- 救急患者への対応特に、高次医療機関への紹介や搬送については、指導医と紹介や搬送の適応、その際の業務内容を十分考えた上で参加をする。
- 地域特有の疾患は適宜経験する機会をもつ。
- 緩和・終末期ケアに係わる機会をもつ。

指導責任者と施設

○指導責任者

藤崎 秀明（院長）

○研修施設

医療法人徳洲会 沖永良部徳洲会病院

〒891-9296 鹿児島県大島郡知名町瀬利覚 2208

TEL. 0997-93-3000 FAX. 0997-93-2672

スケジュール（予定表）の一例

	月	火	水	木	金	土
8:00-8:15	新入院回診 (カルテ回診) プレカンファ	新入院回診 (カルテ回診) プレカンファ	新入院回診 (カルテ回診) プレカンファ	新入院回診 (カルテ回診) プレカンファ	新入院回診 (カルテ回診) プレカンファ	週のフィード バック・セッシ ョン 8:00-8:30
8:15-8:30	医局 ミーティング	医局 ミーティング	医局 ミーティング	医局 ミーティング	医局 ミーティング	
9:00-12:00	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来診療
13:00-16:00	外来研修 訪問診療	外来研修 訪問診療	外来研修 訪問診療	外来研修 訪問診療	外来研修 訪問診療	
16:00-17:00	病棟業務 指導医と回診 手術、検査	訪問診療同行 病棟業務 指導医と回診 手術、検査	病棟業務 指導医と回診 手術、検査	訪問診療同行 病棟業務 指導医と回診 手術、検査	病棟業務 指導医と回診 手術、検査	
19:00-		外来研修				
				当直業務		

プレ・カンファレンス

前日までの振り返り、その日の業務の打ち合わせ、朝礼などに参加。

外来診療

外来診療時間に実務研修を行う。

訪問診療

原則として指導医とともにいき、研修医だけの単独診療にならないように予め業務内容を決めて同行させる。

ポストカンファレンス

その日に経験した症例を振り返り、学ぶべき項目を整理する。

週のフィードバック

その週までの研修の記録を参考にその週の振り返りとまとめ、学ぶべき項目を整理する。

<研修評価>

○ 研修期間中の評価

- ☐ 毎日の診療の終わりに診察内容について振り返りの時間を設け、指導医からフィードバックを得る。
- ☐ 週の終わりにも総括の時間を設け、指導医からフィードバックを得る。（研修の記録を利用）。
- ☐ 当直や時間外業務については、必ず指導医とともにに行い、その場または、オンコール体制のもとでは、カルテレビューなどを行い、フィードバックを得る（業務内容や処方にはカウンターサインをもらう）。

○ 研修修了時

- ☐ 研修修了時にプログラムや指導医に対する逆のフィードバックを行う。
- ☐ 評価表を用いて自己評価を行い、指導医の評価をもらって、研修全体を振り返り、正式なフィードバックを得る。

○ 研修修了まで

- ☐ 研修期間中に体験した事例・症例について、僻地離島の中小病院の地域における役割、機能について考察してレポートする。（事例・症例報告書）
- ☐ 地域での健康教室、教育講演に講師として参加する。機会がない場合は院内でこれに変わるものを職員向けに行う。講演後は、指導医より内容などについてフィードバックを受ける。（医療講演報告書）